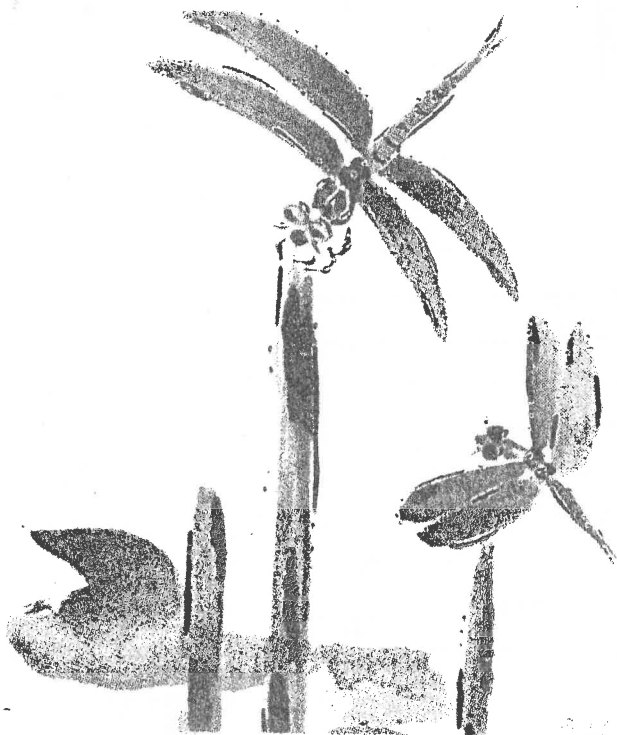


99.9  
霊性センターニュース  
136号



「イエスの聖心のテレジア・マルガリタ・レディ」（3）

霊性センターカルメル

断想（140）

ヘンリー・ナーウェンの「旅路の糧」（15）

キリスト教霊性史の中の聖人たち（4）

フォコラーレニュースより

諸所の企画のご紹介

新刊本の紹介

お願い



— 神は愛です —

チブリアノ・ボンタッキョ

「神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。」（1ヨハネ4・16）。私達は、この言葉を何度となく聞いています。その意味も分かっていると思います。しかしながら、この言葉がどのくらい私達の心に響いてくるのでしょうか。

聖書のどの言葉についても同じことが言えると思います。例えば、「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。（ヨハネ3・16）… 「神は、私達全ての為に、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、」（ローマ8・32）等の言葉を何度も心の中で味わって来たと思います。その意味の素晴らしさもわかっていると思います。でも、これらの言葉はどれくらいの反響を私達の心に呼び起こしているのでしょうか。また、私達の生活に於いてどのくらいの力を発揮しているのでしょうか。

聖テレジア・マルガリタも「神は愛です」という言葉を何度も心に味わった事でしょう。小さい時から神の愛に強く引かれていた彼女の心にこの言葉が何時も止どまっていた、愛の実践にかりたてる原動力になっていたとおもいます。彼女の生活に於いてこれだけの力を発揮していたこの言葉は、ある時から更に彼女の愛の炎を燃え立たせるものとなりました。亡くなる3年前の事でした。「教会の祈り」の「3時課」の時に、この言葉が読まれた瞬間、聖霊によってそれを捕らえたのでしょうか、それとも、この言葉に満ちている霊によって捕らえられたのでしょうか、その時まで体験した事のない反響を彼女の心に呼び起こしたのです。祈りを終えて仕事に就いても、その顔はまだ輝き、小さい声で「神は愛です」と何度もささやいていました。何日かの間、その言葉に強く捕らえられて、何かに酔っている人のように過ごしていたそうです。その時彼女の中に

何が起こったのでしょうか。恐らくその時に、彼女は神の愛の深さ、広さ、高さを、自分の力が耐えられる以上に深く悟り、実感したこの体験は、彼女の心の中に「愛をもって」神の愛にお応えしたいという前々からおぼえていた

強烈な願望を一層強めたものです。同時に、思うようにその愛に充分にお応えできない自分の力の限界を更に痛感する様になりました。その翌年1768年の3月の始めの黙想会の時の彼女の決心を読んでもみると、神の愛に完全にとらえられ、愛する為の力をひたすら祈っている聖女の姿がみられます。

「私の神よ、私は愛だけを全ての行為の動機にしたい… 私は何かをする時に『今、何の為にこれをするのか… 神への愛の為にこれをしているのでしょうか』と反省致しましょう。そして、もしも、純粋な愛の妨げになるものを自分の中に見出した時は、自分を叱りましょう。… 私はあなたのお望みになる以外の事を望みません。けれども精神がはやっても体は弱いので、自分に対して戦い続ける事をお約束致します。」

当時のフローレンスのカルメルの共同体に於いては高齢者や病人が多かったので、聖女は看護係の手伝いを申し出て、その願いは叶えられました。「天使達（姉妹方のこと）にお仕えする事は最も大きな光栄に思っていたようで、自分を省みないで、この愛の実践に励んでいました。実は、この時、彼女は大きな試練の中にいました。望むように神様に自分の愛を示す事ができないので苦しんでいたところ、今度は自分の中で愛を実行する事に対して今まで体験した事のない一種の抵抗を感じる様になりました。でも、どんな困難にも負けない力を持っていた彼女の愛は、その試練によって更に鍛えられて、一層純粋なものになっていったでしょう。

姉妹方に一生懸命にお仕えしている彼女の姿を見ていると、心の中でそういう困難さを感じている事が決して見られなかったようです。

(1999.6.20 東京在俗者集会の講話より)



## 靈性センターカルメル

### 1. 聖書深読黙想会

- (1)上野毛聖テレジア修道院（黙想）(1999年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。  
(2)宇治聖テレジア修道院（黙想）（1999年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。  
(3)名古屋教区聖書深読会

#### 1. 日本カトリック研究センター

〒466-0834 名古屋市昭和区広路町隼人30 TEL. 052-831-5037  
FAX. 052-831-5317

#### 2. 宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12

日時：10月2日（土）夕食～3日（日）昼食

1. 2. いずれも

指導：奥村一郎師（カルメル会）

連絡：小林 厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

\*申込・締切り 実施日2週間前 \* TEL. 052-701-3685

#### (4)大分聖テレジア修道院（黙想）

指導：奥村一郎師（カルメル会）

日時：10月27日（水）夕食～28日（木）昼食

連絡：富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL. 0975-41-4012

#### (5)聖書深読箇所（通信）原則として月の第2日曜日

6/13 年間第11主日 マタ 9:36-10:8 (了)

7/11 年間第15主日 マタ 13:1-23 (了)

9/12 年間第24主日 マタ 18:21-35

10/10 年間第28主日 マタ 22:1-14

11/14 年間第33主日 マタ 25:14-30

## (6)通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：戸張由美子 〒163-0201東京都新宿区住友ビル 私書箱22

[註]「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。参加者は持参下い。定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。尚、3冊以上注文されれば、20%引きになります。

オリエンス宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEJ. 03-3322-7601

FAX. 03-3325-5322

## 2. 聖書と念祷の集い No.8

星野正道神父（毎月1回）

- ・日 時：10月23日（土）3：30～
- ・場 所：上野毛教会・信徒会館 26号室
- ・テキスト：神との親しさ（2）『祈りと対神徳』伊達カルメル会訳，聖母文庫 500円。上野毛教会売店にあります。
- ・急に変更になることもありますので数回ご出席になってみてその後、継続しようと思いいなる方は連絡網に入っただけだと思います。連絡網に入っただけの方は、土曜日の午前9時30分から11時30分の間に修道院の受付に 電話 をして変更がないのをたしかめてからお出かけください。 TEL. 03-3704-2171 カルメル会修道院受付 久岡
- ・その他、夏休み、冬休み、春休み などのお知らせはこの霊性センターニュースに掲載いたします。
- ・なお、この集いは前半約40分の講話と後半約45分の沈黙の祈りで構成されています。
- ・また、この集い終了後、5時30分から6時まで、全世界の人々の為に祈る神の民の祈り「教会の祈り」、
- ・私たち一人一人を母の愛をもって見守る聖母マリアへの祈り、「サルヴェレジーナ」
- ・主の受肉と十字架を通しての復活を賛える「お告げの祈り」、そして
- ・希望者には主御自身の御体をいただく聖体拝領が続きます。これらにもご自由にご参加ください。

そして大都会の中のオアシスをこの修道院で探り当てましょう。

1999年 カルメル会東京・上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
黙想会年間スケジュール

1. 信徒と奉献生活者のための個人指導黙想会

スタッフ 星野正道師、福田正範師（以上カルメル会）

Sr. 中川享子（ケベックカリタス会）、他

(1) 6月 3日（木）4時から12日（土）朝食（了）

(2) 10月22日（金）4時から31日（日）朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加もお受けできると思います。

詳しくは申込用紙を御請求ください。

2. 奉献生活者のための黙想会

(1) 8月22日（日）4時から31日（火）朝食 山田裕於師（了）

(2) 12月26日（日）4時から翌年1月4日（火）朝食 渡辺幹夫師

3. 聖書深読黙想会

(1) 1月30日（土）夕食から31日（日）16時30分 奥村一郎師（了）

(2) 5月 8日（土）夕食から 9日（日） " " （了）

(3) 7月 3日（土）夕食から 4日（日） " " （了）

(4) 9月18日（土）夕食から19日（日） " カルメル会士

(5) 12月 4日（土）夕食から 5日（日） " 奥村一郎師

4. ウェンズデイ・リトリート スタッフ：星野正道師

大聖年に向けての準備 「御父の愛に結ばれていのちの共同体をつくろう」

（音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.）

(1) 5月12日（水）10時から16時 （了）

(2) 6月16日（水） " （了）

(3) 7月14日（水） " （了）

(4) 10月 6日（水） "

(5) 11月10日（水） "

5. ウィークエンド・リトリート          スタッフ：カルメル会士

(最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。)

- (1) 5月28日(金) 20時から 30日(日) 15時          渡辺幹夫師 (了)  
(2) 6月25日(金)    "            27日(日)    "          福田正範師 (了)  
(3) 12月17日(金) 夕食から 19日(日) 昼食          チプリアノ師

6. 特別企画黙想会

- (1) 5月18日(火) 夕食から 20日(木) 昼食(通い可) アロイジオ師(了)

以上、1.から6.までの申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。

皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355 お急ぎの時 03-3704-2171

FAX. 03-3704-1764

7. 青年黙想会(男女)

スタッフ：カルメル会士

- (1) 5月22日(土) 16時から 23日(日) 16時          (了)

希望者には5月21日(金) 20時から始まるプログラムもあります。

その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

- (2) 11月 6日(土) 16時から 7日(日) 16時

希望者には11月5日(金) 20時から始まるプログラムもあります。

その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

この青年黙想会のお問い合わせ、申込はハガキかFAXで下記まで。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25カルメル会

青年黙想会担当神学生          FAX. 03-3704-1764



# 修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO. 11

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないか、とと思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないか、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来て見ませんか。

\*日時 12月12日(日) 10時から16時まで、昼食は各自お持ちください。

\*対象 30才くらいまでの独身男女青年

\*スタッフ カルメル会司祭 星野正道

\*費用 1000円

\*内容 主日ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等

\*持って来るもの 聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等

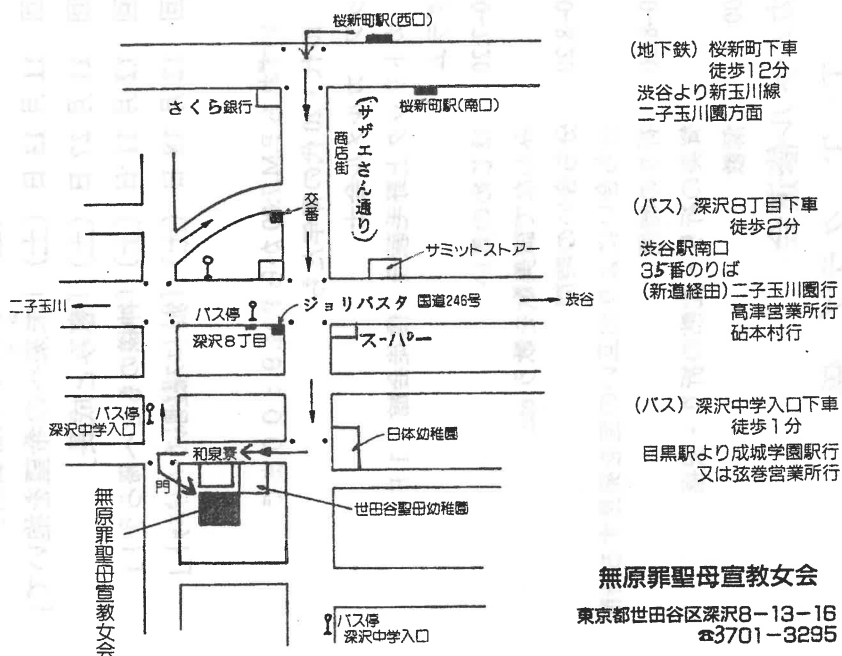
\*連絡先 158 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会

星野正道神父 TEL03-3704-2171 申し込みの必要はありません。

\*会場 無原罪聖母宣教会修道院 158 世田谷区深沢8の13の16

東急新玉川線桜新町下車

TEL03-3701-3295

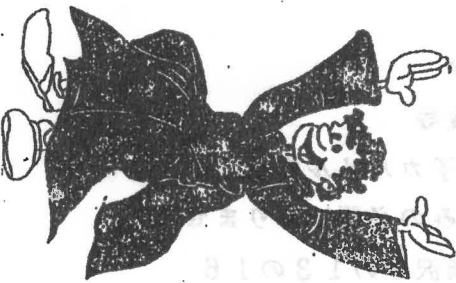
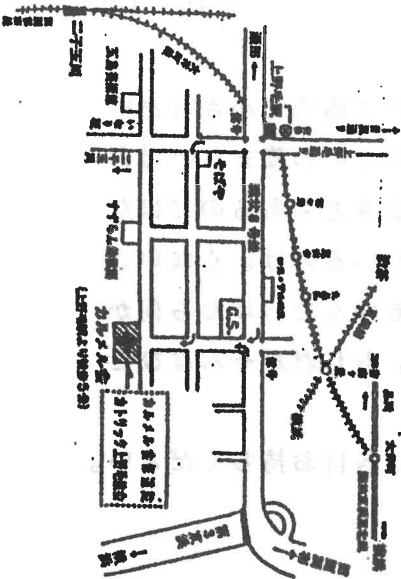


# T. T. クラブ

～10代・20代の  
青年たちの集い～

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラブ』を行っています。このクラブの特徴は、現代の話題を使って、お互いの話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するということを中心に行きます。その中で、お互いの神様から頂いた“宝”を発見し、よりよく人々と共に生きていく可能性をさがしていければと願っております。

ぜひ、参加してみてください。わたしどもスタッフは心からおちしております。



- 第25回 7月10日(土) 「教会仲間」 (了)
- 第26回 10月9日(土) 「みんなで遊ぼう! (2)」
- 第27回 10月23日(土) 「私たちの居場所」
- 第28回 11月13日(土) 「未来への希望を抱いて」
- 第29回 11月27日(土) 「恵みと成長」
- 第30回 12月11日(土) 「神様のもとへ帰ろう!」
- 第31回 12月18日(土) 「好きイイ様を聞いて、バリエイト」

\*時間 いずれもP.M.7:00からP.M.9:00まで

\*対象 10代・20代の青年たち

\*スタッフ カルメル会士

\*場所 カトリック上野毛教会 信徒会館 1F

\*プログラム

7:00-7:20 はじめの集い

みんなで讃美歌を歌う etc.

7:20-8:20 分ち合いの時間

分ち合いによりお互いの宝を発見する時間

8:30-8:50 折りの時間

賛美の折り・沈黙の折り・祝福

9:00 解散

カルメル修道会

T. T. クラブ 係

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL 03 (3704) 2171

## 東京カルメル在俗者会黙想会

- (了) 5月13日(木)夕食から 5月16日(日)午後集会 チプリアノ師  
(了) 8月 5日(木)夕食から 8月 8日(日)午後講話 ”  
(3) 9月22日(水)午後7時から9月26日(日)朝食 渡辺幹夫師  
(4) 10月15日(金)午後7時から10月19日(火)午前講話 星野正道師  
(10月17日午前講話、午後集会)  
(5) 11月19日(金)午後7時から11月23日(火)朝食 チプリアノ師

◎空きがある場合にはどなたでもご参加になれます。

◎お問い合わせ、お申し込みは永瀬まで(045-562-2296)



### III

蛭田 幼一

一九九七年八月四日

『小林秀雄とその時代』読み終えたところだ。昼間の面晤でも話頭へのぼせた、頭と気持ちの閉塞感、全く払拭された。僕には会話と読書が糧になっていく。考えてみると、きみのいう「いい子」になりたくて「いい子」になれないところから、この閉塞感は来ているらしい。きみは「アメリカの影」といった、もしそうだとしたら恐ろしいな。しかし逃げてはダメだ。教会にはもちろん通う。救い難い現実にも、恩寵の光は差しているだろう。『大英帝国衰亡史』読んでみるよ。

(筆者は聖書深読・聖書と今傍の集い参加者)

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)  
1999年 黙想会案内

聖書深読黙想会(一般対象)

5月29日(土)夕食 ~ 30日(日)午後 (丁)	大瀬高司神父担当
7月10日(土)夕食 ~ 11日(日)午後 //	奥村一郎神父担当
9月18日(土)夕食 ~ 19日(日)午後	中川博道神父担当
11月27日(土)夕食 ~ 28日(日)午後	奥村一郎神父担当

青年のための黙想

男性のため (高校生以上~35歳まで対象)

カルメル会士

6月12日(土) 5:00PM ~ 13日(日) 4:00PM (丁)  
(テーマ) 『アメイジンググレイス(驚くべき恵み) 私をさがす父なる神』  
11月20日(土) 5:00PM ~ 21日(日) 4:00PM

女性のため (高校生以上~35歳まで対象)

カルメル宣教修道女会シスター

5月22日(土) 5:00PM ~ 23日(日) 4:00PM (丁)  
(テーマ) 『アメイジンググレイス(驚くべき恵み) 私をさがす父なる神』  
11月13日(土) 5:00PM ~ 14日(日) 4:00PM

中川博道神父

壮年男性のための黙想 (ホッしよう会)

中川博道神父

6月19日(土) 5:00PM ~ 20日(日) 4:00PM (丁)  
10月23日(土) 5:00PM ~ 24日(日) 4:00PM

半日の黙想 (一般対象)

中川博道神父

4月22日(木) 10:00AM ~ 4:00PM (丁)  
7月1日(木) 10:00AM ~ 4:00PM //

10月28日(木) 10:00AM ~ 4:00PM

幼いイエスの聖テレーズ黙想 (一般対象)

伊従信子氏 (ノートルダム・ウイ)

9月30日(木) 4:00PM ~ 10月1日(金) 3:00PM

3泊4日の黙想 (一般対象)

伊従信子氏 (ノートルダム・ウイ)

(テーマ) 『日常生活での神とのかわり』  
7月23日(金) 5:00PM ~ 26日(月) 昼食(丁)

修道女の黙想

7月27日(火) 5:00PM ~ 8月5日朝食 (了)  
12月6日(月) 5:00PM ~ 12月15日朝食  
12月27日(月) 5:00PM ~ 1月5日朝食

アロイジオ神父  
奥村一郎神父  
中川博道神父



(申し込み問い合わせ)

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 0774-32-7016 / Fax 32-7457

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山 39-12

# 断想 (140)

## 動くチーズ

…… 小さくて大きな思い出 ……

奥村 一郎

私がフランスのカルメル会修道院に入ったのは、もうすでに、五十年ちか  
い前の事。

当時のフランス料理といえば、世界一流だったが、修道院の食事ときは、  
そのようなものとは凡そかけ離れた貧しさそのものであった。その中で、高  
級料理とあまり変わらないものがあったとすれば、フランス人自慢のチーズ  
ぐらい。

ところで、ある日の夕食のおり、食べようとしたチーズを見ると、白い蛆  
が二匹、体をくねらせながらチーズの中から出てきた。それも交互に出たり  
入ったり。途端にぎょっとして、手がでない。それに、以前、台所の外の庇  
の下に吊してあったチーズ籠に、黒い蠅がいっぱい集まっていたのを思い出  
したため、全く食欲喪失。しかし、修道院では、出された物は全部食べなけ  
ればならないという規則。私がモジモジしていることに気付いた院長は、黙  
ったまま、そのチーズを持ってくるよう目配せした。そっと持って行くと、  
院長は、皿ぐるみ取りかえ、何もなかったかのように、蛆のチーズをそのま  
ま食べてしまった。それを見ただけで私はびっくり仰天。夕食がすんで、皆  
と中庭に出ると、院長は優しく微笑みながら私に話しかけてこられた。

「あなたは、どうして、あのチーズを食べなかったのですか？… あれほ  
どおいしいチーズはないのに。あれは動くチーズというのです。」

「動くチーズ」…ホントに、そんなものがあるのか、ないのか？…  
知識的には、今も半信半疑。まだ辞書で確かめた事もない。しかし、そこで  
腹を壊そうと、死んでしまおうと、私のために蛆のチーズをいかにもうれし  
そうに食べてくれた院長の愛…… 小さな二匹の虫から大きな愛を教えられ  
た貴重な思い出となった。

### 父親の涙

放蕩息子の物語の父親は、非常に苦しみました。彼は、下の息子が出て行くのを見ていました。自分に対する失望、拒否、悪口を知っていました。彼はまた、上の息子が怒り憤慨するのを見ていました。彼に愛情と支えを示すことはできませんでした。父親の人生の大半は、待つことに費やされました。彼は、下の息子に家に戻るよう強いることも、上の息子に彼の怒りを忘れるよう強いることもできませんでした。父のもとに戻るイニシアチヴは、彼ら自身だけのものでした。

長い年月息子をひたすら待つ間、父親は何度も涙を流し、何度も自分に死んだのです。彼は苦しむことによって、空<sup>から</sup>にされました。けれどもその空の空間は、息子たちの戻る時が来たとき、彼らを受け入れる場を創り出しました。私たちは、このような父親になるよう招かれているのです。

(704)

### 私たちの傷と共に聞くこと

苦しむ人と連帯することは、自分自身の苦しみについてその人と話さなければならぬということではありません。自分自身の苦しみについて話すことは、苦しみの中にいる人には、ほとんど助けにはなりません。傷ついた癒し手とは、自分自身の傷について話すことなく、苦しみの中にいる人に耳を傾けることができる人のことです。私たちが苦しい悩みの時を生きぬいたとき、私たちは、驚くべき注意深さと愛をもって、自分自身の体験に触れることなく、悩みの中にいる人に耳を傾けることができます。たいていの場合、苦しんでいる人の注意を、私たち自身に向けさせない方がよいのです。包帯された私たち自身の傷が、私たちの全存在をもって、他者に耳を傾けることを可能にしてくれることを信じなければなりません。それが、癒しなのです。

(710)

## 『シエナのカタリナ』

カルメル会助祭 松田 浩一

### 歴史の中の位置づけ

11世紀にグレゴリウス7世による教会改革以来、教皇権が世俗的統制からの独立という形に確立してきた。そして、12世紀後半の教皇イノケンティウス3世において、この教皇権が世俗権の上にまで発展していった。そして、聖俗両面での最高の権威まで教皇権を押し上げた。しかし、教皇イノケンティウス3世によって最高潮に達した教皇権も、教皇職を引き継ぐ後の教皇たちは、維持できなくなる。教皇グレゴリウス9世と皇帝フリードリッヒ2世との間において争いが表面化してくる。

その後、ボニファチウス8世教皇の代になり、フランスのフィリップ美王との争いになる。この後の教皇がアビニオンでの生活となるのである。このアビニオンの教皇たちの時代が75年続くが、最後のアビニオンの教皇グレゴリウス11世がローマに帰還するきっかけとなる人物が、シエナのカタリナである。しかし、教皇グレゴリウス11世がローマに着くと、まもなく亡くなる。その後にローマの枢機卿たちに選ばれた教皇ウルバヌス6世は、暴君的な性格をもち、枢機卿たちは、自分たちが選んだにもかかわらず、教皇ウルバヌス6世を捨て、新しい対立教皇を選ぶことになる。ここに40年間も続く中世の教会大分裂が生じることになる。カタリナは教皇グレゴリウス11世と教皇ウルバヌス6世の時代に教皇のもとで生きた人であり、教会の苦悩の中で活動した人である。そして最後まで教皇ウルバヌス6世のもとに留まった。

靈性面では、中世の神政政治に基盤をおいていたものから、アビニオン時代から始まった新たな人間中心主義が生まれようとしていた。それは、アビニオン時代から始まった「百年戦争」、ペストの流行、そして、教会の中の大分裂、聖職者の墮落、民衆の不道德な行為などから、自ずと各個人個人が問われた結果であった。この中で、思弁的な靈性から、愛を中心に置く靈性に移行しつつあった。シエナのカタリ

ナは神の愛の凄まじさについて述べている。

しかし、この個人的な関係にも一つの危険があった。ミサや聖務は個人のものになり民衆が参加できなくなり、聖体拝領も民衆から遠く離れる。ここに信仰の個人主義が出てきた。このような状況の中、教会共同体への繋がりも忘れていったのである。1世紀後のルターが掲げる「ただ信仰のみ」という下地もこのような状況から生まれてきたともいえる。

また、カタリナは、ドミニコ会の第三会員であり、世間に居ながら修道靈性に生きる人であった。この面からいっても、修道靈性を一般民衆にもたらした聖人ともいえる。彼女の後に続くローマのフランチェスカ、ジェノヴァのカタリナなども世間に居ながら修道靈性を生きた人であった。彼女たちも一般民衆に慈善活動をしながら、修道靈性を広めていった。このように、一般信徒にもキリスト教靈性に生きられることを証していった。しかし、危険も含んでいた。それは当時の人々は、キリスト教信仰と迷信が混在して、情緒的に捕らえる傾向にあったからであった。その一つの表われとして、14・15世紀から17世紀頃まで、この悪魔熱が盛んであった。そのため、教会の中にあつた異端審問所はこの悪魔についても取り扱うことになる。しかし、その判決の出し方が、非人間的な方法でとられたことも事実である。フランスの聖女ジャンヌ・ダルクも、その被害にあい、死刑にされている。

このような時代の転換期に生きたキリストを信じて生きる女性としてカタリナは位置づけることができる。では、その生涯と思想はどのようなものであったかをみてみることにする。

## シエナのカタリナの生涯と思想

カタリナの資料としてあげられるのは、彼女の聴罪司祭であつたカプアのライモンドの『カタリナ伝』とその他の小伝、彼女の靈的教えをまとめた『対話』、そして『書簡集』と『祈り』である。まず、彼女の全体像をみるのに大切なのは、彼女の生涯であろう。ここで資料となるのは、カプアのライモンドの『カタリナ伝』などの伝記であるが、その真実性は議論的である。しかし、彼女の生涯から現代の人々もいろいろと汲み取っているのも事実である。このようなものを参考にして少し要約することにする<sup>1</sup>。



カタリナは1347年にシエナで生まれた。25人の兄弟中、24番目の子供であった。彼女は早く召命を感じていた。彼女は6歳のときに教皇の冠を被ったキリストを靈的に直観していたのである。その後、彼女の家族からは結婚ばなしを持ち掛けられても断わることになり、家族の人々の居心地を悪くすることになる。しかし、カタリナは困難なことがあっても召命に目を離さず、ついにドミニコ会第三会に入会する。

彼女は第三会に入会して、すぐに活動をせず、キリストの教えに耳を傾ける期間を数年過ごしている。この中で彼女は、主が自ら存在する方であり、カタリナは自ら存在しないものであることを学ぶ。主を知り、自己を知る究極的な教えである。このことにより彼女は謙遜と信頼を学ぶことになり、生涯この謙遜と信頼が彼女の基盤となる。しかし、このようなキリストとの親密な期間に悪魔の誘惑も受けることになるが、彼女は愚かにもこの誘惑に負けることがなかった。ずっと後になってカタリナは、聴罪司祭ライモンドに、本当に恐ろしかったのは単に悪魔の存在ではなく、彼女の精神の中の悪魔の存在だったと話している。ここで気づくべきことだったことは、彼女の中の悪魔の存在は、彼女自身ではないということであった。カタリナは常に変化する己の考えと、己の最も深いところにある自己とを区別することを学んだようである。このような内面的な出来事を通して、キリストから多くのことを学んだ後、キリストと靈的婚姻を結ぶことになり、この後、彼女の生活が一変することになる。すなわち、主がカタリナに隣人のために働くように命じるのである。20歳の時のことである。彼女はシエナの町から活動を始め、多くの協力者を得ることになる。彼女の活動は病院や各自の家で病氣と貧困に悩んでいる者を世話することであった。このような活動をして、シエナの町の一つの灯火となっていくた。

1374年、カタリナが27歳のとき、ドミニコ会総長よりフィレンツェに呼び出され、会より彼女の靈的家族長として一人のドミニコ会士が任命される。彼がカプアのライモンドである。

この時、教皇がフランスのアビニオンに滞在していたが、イタリアではフランス人の教皇代理に治められていた。しかし、イタリアのことをぜんぜん知らない人が治めていて、イタリア人との緊張が高まっていた。ついに1375年にフィレンツェが教皇に宣戦布告し、他のほとんどの共和国も参加していった。この状況に対するカタリナの

悲しみは、4つの基本的な目的となって具体化した。第一にカタリナは教皇グレゴリウス11世にローマに戻るように懇願した。第二に教皇に上から行われる聖職者の大改革を始めるように勧めた。第三に寛大に振る舞いゆるしの模範を示してフィレンツェと和解すべきだと勧め、最後に十字軍を派遣すべきだと勧めた。カタリナがこのような目的を出した意図には、キリストの十字架を無にしてはいけないというものがあった。第一番目には、ローマの殉教者たちが流した血とアビニオンでの安楽の地の対比、第二番目には、聖職者の墮落、十字架の死によってもたらされた平和の危機、異教徒の改宗のためというものであった。(第四の目的は、少々飛躍しすぎているが。)彼女はこのような目的を持って、1375年以来、いろいろなところにまわり、一つの場所の居を構えることはなかった。生涯の最後の二年間だけ、ローマで過ごすことになる。第一の目的は教皇グレゴリウス11世がローマに戻ったことで実施された。第二の目的は、彼女の死後に行われる。第三の目的は、最終的には失敗に終わった。第四の目的は、行われなかった。

このような活動をしていたカタリナでしたが、ここにもう一つ大きな問題が出てきた。教皇グレゴリウス11世が1378年に死去した後、ウルバヌス6世が後を継いだ。彼は酷い政治を行い、それに対して枢機卿たちが対立教皇を擁立するという事態になったことである。カタリナは最後までウルバヌス6世に忠実であった。彼女は、教皇ウルバヌス6世を支持するため、イタリアの町々に手紙をしたため、多くの町がそれに従った。それと同時に、ウルバヌス6世にたびたび意見を出したりもしていた。しかし、事態は一向に良くならなかった。その中で彼女は教会の苦悩を母の心のように自分の心に抱えて1380年ローマで亡くなる。

さて、カタリナは教会のために活動している最中に、『対話』という書物を書き始めている。この『対話』はカタリナと神との対話形式で書かれたものであり、読みやすい本ではない。構造も複雑である。あえてこの本の構造を見てみると次のようになる<sup>2</sup>。

この書は神への四つの請願と各々に対する神の答え、そしてそれに続くカタリナの感謝の祈りから構成されている。神への四つの請願はプロローグにも出てくるが、その背景となるのは、神との一致、もう一人のキリストになるための真理の探究のためである。その四つの請

願は、1) カタリナ自身のため、2) 聖なる教会の改革のため、3) 全般的には世界全体のため、個別的にははなはだしい不敬と不義によって聖なる教会に反抗しているキリスト者の平和のため、4) 世界の全般的な需要と発生した特殊な状況とのために、神の「摂理」のご配慮を祈るため、である。

最初の請願では、はじめに神の愛の卓越性について語り、神と隣人への愛を詳しく語る。実際に愛で行動しようとするとき限界があるのに対して、神様の無限の愛に望みを持つ必要を説いている。そして、この愛を壊すのは、罪であり、神と隣人への愛を失わせる自愛心から始まるとする。また、善を行おうとする徳の大切さをいい、苦行よりも重視することを説く。ここに神の光を受けた分別の大切さも加えられる。この神の光を受けた分別が、神の認識から自分自身への認識、神への愛から隣人への愛に及び、絶えず善徳に向かわせることを言っている。

第二の問いと第三の問いは順序に従わずに記述されている。それらの答えは「世界に対する憐れみ」、「聖なる教会に対する憐れみ」といったものである。まず、「世界に対する憐れみ」とは、受肉したみことばという賜物を通じて姿を現した。この賜物は世界と天上を結ぶ橋である。第二の賜物として「キリストとの一致」がくるが、このキリストとどのように一致して渡るかが示される。それは奴隷的な恐怖を持ったものから不完全ながらも愛を持ったものへ、最後に完全な愛をもったものを示している。この後に第三の賜物、「涙の賜物」が位置づけられている。そして真理に従って生きるための光を説明される。

次に「聖なる教会に対する憐れみ」であるが、実際には教会全体ではなく、位階制に関わるものである。この分野で司祭職の尊厳はいかなるものか、司牧者の徳はいかなるものか、彼らはいかなる悪徳を避けるべきかが説明されている。

最後の第四の問いの答えは、罪から贖い恩恵と完全な愛徳の生活に導き入れる人たちの全般的な救いと、ある特殊なケースに関することとの双方に関わる「憐れみの摂理」についての論で構成されている。次いで、従順と従順な者たちに対する特別の摂理についての論が続く。

結論として神は『対話』を要約して、カタリナは三位一体への賛美と感謝で応え、最後に真理をまとえるように祈り終わっている。

以上『対話』についてみてみたが、その他にもカタリナの霊性をみる

のに『書簡集』と『祈り』がある。この二つの書物から彼女の豊かな霊性を知ることが出来ると思われるが、今回は割愛することにする。

## 現代へのアプローチ

以上、カタリナの歴史的な位置づけと生涯、そして思想をみてきたが、彼女の霊性は深く、その一部しかみていない。そのため、ここでは今までみてきた中で考察することにする。

時代的には中世ヨーロッパの混乱した時代であり、教会もその混乱の中に入っていった。教皇たちがアビニオンに滞在してから、イタリアでは教皇との関係も悪くなっていったようである。この中で片田舎のシエナに生まれたカタリナであったが、彼女は普通の家庭で育った信仰深い娘さんであった。そのカタリナを神は導いて教会の灯火となっていったことは不思議な神のみ業である。そのカタリナははじめから大聖人みたいな存在ではなかった。彼女も神の指導のもとに成長していった一人の女性であった。しかし、彼女の生涯の特徴は、子供時代から神様、特にキリストと人格的な関係を持っていたことであろう。彼女は後にドミニコ会第三会に入会するが、ドミノコ会の特徴も、キリストとの人格的な交わりの中からあふれ出る愛に駆られて、使徒職に従事することである。

彼女のもう一つの特徴は、最初から使徒職に携わるのではなく、神との親しい交わりの中で神の教えを学び、その時を終えてから使徒職に力いっぱい励むことである。

日本では、成人洗礼が多く、洗礼を受けた後、アフターケアが少なく、すぐに活動する傾向にあるが、神との親しい交わりの時を失って、活動の意味を失う人もよくある。また、召命を考えるとこのカタリナがとった神との親しい交わりなくして、見極めるのは困難を伴う。カタリナはこの親しい交わりから、神についてと自分についてを知ることが出来た。すなわち、自分の存在の仕方を見つけたともいえる。このことは、召命を考えている人のみでなく、すべての人に当てはまることでもある。すなわち、各々が神の御前で生き方を見つけるには、神との親しい交わりの時を持つ必要があることであろう。

さて、カタリナは20歳を過ぎると使徒職に忙しくなるが、神との親しい交わりの中で愛の卓越性を学んだ後、この愛は隣人にも向けられることも学んでいく。すなわち、神を愛するとは、隣人を愛するこ

とを通して計られることである。彼女の隣人を愛する行為は、シエナの町から、イタリア中まで広がることになり、全教会にまで広がることになる。最後には、キリストの心をもって、そして母の心をもって教会と人々を愛することになる。この愛は、教会分裂によっても減ることはなく、ますます強くなっていき、この愛によって焼き尽くされたともいえよう。彼女の愛はキリストの十字架の愛に同化していった人であった。

また、『対話』でみられることは、真理の探究とその真理に従って生きることである。この真理を神はカタリナに示されたのである。それは教会に保持している真理の教えに相当しているものであろう。彼女は当時の世の中であって、生きる術を神に願った。その中で教えられたものである。現代よくみられることとして、神学をするにも学問として捉えるだけであり、信仰をもって学ぶことがなされないことがある。また、生活と信仰が遊離してしまい、教会から離れてしまうこともよくある。ここでみられるのは生活が実り豊かになるために、常に神が示される真理の探究とそれに従うことの必要性があることを教えられる。カタリナは当時の教会分裂などの最中であって、この真理に従おうとしていた。ウルバヌス6世に忠実に従ったのもそのことからくるものであろう。

今回、初めて聖なる女性についてみてみたが、男性女性の区別なく、多くの宝を教会に残した人であることがあらためて知る機会となった。それぞれの人が持っている善は、神がその時に開花するように導くことを彼女もいっているが、そのとおりでであると思われる。この善を行えることが出来るよう祈っていきたいものである。

<注>

1, ここではライモンド・ダ・カプアの『シエナの聖カタリナ』(岳野 慶作 訳, 中央出版社, 1991)をみながら、キャロル・リー・フリンダースの『奇蹟をみた七人の女性神秘家の肖像』(竹中 弥生訳, 天使館, 1999)、池田 敏雄の『シエナの聖女カタリナ』(中央出版社, 1980)、リチャード・J・クッシングの『シエナの聖女カタリナ』(聖ドミニコ宣教修道女会 訳, 聖ドミニコ宣教修道女会, 1980)を参考にまとめてみた。

2, ここではシエナの聖カタリナの『対話』(岳野 慶作 訳, 中央出

版社、1988)、SUZANNE NOFFKE O.P, GIULIANA CAVALLINI, 「Catherine of Siena, THE DAIALOGUE」(PAURIST PRESS, NEW YORK, 1980)をみながら、J. ルクレール, F. ヴァンダンブルーク, 『キリスト教神秘思想史 中世の霊性』(上智大学中世研究所 編, 平凡社, 1997)の「シエナのカタリナ」(p 608-616)を参考にしてまとめた。

<参考文献>

トマス・ボーケンコッタ, 『新世界・カトリック・教会史』, エンデルレ, 1992

M.D.ノウルズ他, 『キリスト教史・第4巻・中世キリスト教の発展』上智大学中世思想研究所, 1981

アウグスト・フランツェン, 『教会史提要』, 中村友太郎訳, エンデルレ, 1992

『岩波講座・世界の歴史11・中世ヨーロッパ世界 III』, 岩波書店, 1970

J. ルクレール, F. ヴァンダンブルーク, 『キリスト教神秘思想史 中世の霊性』, 上智大学中世研究所 編, 平凡社, 1997

ライモンド・ダ・カプア, 『シエナの聖カタリナ』, 岳野 慶作 訳, 中央出版社, 1991

シエナの聖カタリナ, 『対話』, 岳野 慶作 訳, 中央出版社, 1988

シエナの聖カタリナ, 『手紙』, 岳野 慶作 訳, 中央出版社, 1989

キャロル・リー・フリンダース, 『奇蹟をみた七人の女性神秘家の肖像』, 竹中 弥生訳, 天使館, 1999

池田 敏雄, 『シエナの聖女カタリナ』, 中央出版社, 1980

リチャード・J・クッシング, 『シエナの聖女カタリナ』, 聖ドミニコ宣教修道女会 訳, 聖ドミニコ宣教修道女会, 1980

SUZANNE NOFFKE O.P, GIULIANA CAVALLINI, 「Catherine of Siena, THE DAIALOGUE」, PAURIST PRESS, NEW YORK, 1980

Mary Ann Fatula O.P, 「CATHERINE OF SIENA'S WAY」, Darton, Longman and Todd, London, 1987

## み言葉を信じるなら

(ルカ1・45)

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょ。

この言葉は、福音のある出来事の中で見られるものです。ごく普通でありながらもとても神聖な出来事、すなわち、子を宿した二人の母の出会いです。霊的にも肉体的にも、胎の子と一体である二人の母は、子の言葉、子の思いを伝えることができます。たとえば、マリア様の言葉に、エリザベトの胎内の子は喜びおどり、またエリザベトが話す時は、胎内のヨハネ自身が、母の口を借りて語っているかのようです。

さて、マリア様をたたえるエリザベトの言葉を見ると、前半は、「主の母」マリア様に直接向けられているのに対して、最後の部分は三人称を用いて語られています。「信じた方は、なんと幸いでしょ」と。

この表現から「エリザベトの言葉は、普遍的な真理を備えるものとなります。すなわち“信じた人は幸い”という言葉が、すべてのキリスト者にあてはまるものとなるのです。神のみ言葉を受け入れて、それを生きる人、マリア様を模範として生きる人にもかかわってきます」(注1)。

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょ。

これは、福音の中で、マリア様が「幸せな方」と呼ばれる最初の箇所ですが、マリア様に倣って生きようとするすべての人も、同じく「幸せ」であると言えるでしょう。

マリア様の中で、「信仰」と「母性」は密接な関係を持っています。み言葉を受け入れた実りとして、母となられたからです。ここで、ルカ福音史家は、私たちのためにも何かを教えてください。福音のもっと先のほうで、イエスは次のように言っておられます。「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである」(注2)と。

このイエスの言葉を先取りするかのよう、エリザベトは聖霊に押し動かされ、

私たちに告げています。イエスの弟子は皆、主の「母」となることができる、と。神のみ言葉を信じ、み言葉を生きることにより、それが実現します。

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。

マリア様はイエスに次いで、神様に「はい」と完全に答えた方でした。マリア様の聖性と偉大さは、まさにここに見出すことができます。イエスが「言<sup>ことば</sup>」であり、「神のみ言葉が受肉された方」であるとするなら、マリア様は、私たちと同じ被造物でありながらも、み言葉を信じ、「神のみ言葉を完全に生きた方」であった、と言えるでしょう。

マリア様に与えられた「神の母」という使命は、本当に特別で偉大なことです。しかし、自分の内にキリストを生み出すよう神様から招かれているのは、マリア様だけではありません。異なる形ではあっても、キリスト者一人ひとりが、同じ使命に招かれているのです。すなわち、キリストが私たちの中に生きてくださるようにすること、「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」（注3）という聖パウロの言葉を、私たちも繰り返すことができるようにすることです。

では、そのためには、どうすればいいのでしょうか。

マリア様が神のみ言葉に対して、そうであったように、私たちも自分を全面的にみ言葉に委ねることです。イエスがみ言葉の中で約束されることはすべて実現するのだと、マリア様とともに信じることです。み言葉が、私たちにあまりにも多くを要求するように感じる時があっても、マリア様のように、み言葉に信頼しましょう。

み言葉を信じる人は、大きいにしる小さいにしる、いつも素晴らしい出来事を経験します。それを書きとめるなら、何冊も本ができるくらいでしょう。

戦争の真っ最中に、私たちは「求めなさい。そうすれば、与えられる」（注4）というイエスの言葉を信じ、町中の大勢の貧しい人が必要としていたものをすべて願いました。その時、たくさんの小麦粉や牛乳、ジャム、薪や洋服などが届けられた経験は、忘れることができません。

今日も同じことが起きています。「与えなさい。そうすればあなたがたにも与えられる」（注5）というみ言葉にあるように、私たちの「愛の倉庫」に届くものは、時に応じてすべて分配され、それゆえ、いつもいっぱいです。

しかし、何よりも私たちの心を打つのは、イエスの言葉はいつでも、どこでも、



真実であるということです。不可能に思えるような状況でも、地の果てのような所にも、神様の助けが必ず届けられるのです。

しばらく前のことになりますが、一人の大変貧しい母親の場合もそうでした。ある日彼女は、心に促しを感じて、手元に残っていた最後のお金を自分よりも貧しい人に与えました。彼女は「与えなさい、そうすれば与えられる」という福音の言葉を信じており、心はとても平和でした。しばらくすると、末娘が家に帰ってきました。たまたまそこを通りかかった親戚のおじいさんが、たった今、これをくれたの、と言う、その子の小さな手には、母親が先に与えた何倍ものお金がありました。

このような「小さな」経験は、私たちが福音を信じるのを助けてくれるものです。イエスの約束が実現するのを目にする喜び、その幸せを、私たち一人ひとりも味わうことができるのです。

日々の生活の中で、また聖書を読みながら、私たちは神のみ言葉に出会います。心を開いて、み言葉に耳を傾けましょう。イエスが私たちにお求めになること、約束されることは実現すると信じましょう。マリア様や先の貧しい母親にしてくださったのと同様に、イエスが私たちのための約束を実現してくださる日は、決して遠くはないでしょう。

キアラ・ルービック

注1 「ルカによる福音」

ジェラルド・ロセ著

注2 ルカ 8・21

注3 ガラテヤ2・20

注4 マタイ7・7

注5 ルカ6・38

フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055

## 諸所の企画についてのご紹介

### I ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

キリスト者の生活を深める祈りの集い \*いのちの泉へ：聖人たちと共に祈る

1999. 10/23 (土) 「いつくしみの詩」アビィラのテレサと共に

\*変更 11/13 (土) 「愛の炎」十字架の聖ヨハネと共に

12/18 (土) 「御手の中で」幼子イエスと共に

講 師：伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ 会員)

プログラム：午後2時～午後5時半。+ミサ (日曜ミサ) 講話、祈り、お茶&質問

申し込み：電話(18:00-21:30) 又はFax(03)3594-2254。はがきで \*参加費:200円

### II スズラン・ハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細を知りたい方は、下記へ：

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

### III 風の家

指 導：井上 洋治 師 (東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-5-10-101

Tel・FAX 03-3205-6923 詳細はお電話でお尋ね下さい。

### IV 生命山カトリック別院

場 所：〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

1：黙想会：8月16日(月)～24日(火) (開始：16時) (終了：朝食後)

2：研修会

3：21世紀にむけて第4回 宗教者平和の祈りの集会

日時：10月3日(日)午後 場所：生命山カトリック別院

4：祈りの集い：テーマ -三位一体のイコンの観想-

9月9日(木) 10月14日(木)

11月11日(木) 12月9日(木)

このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。

お申込みは生命山別院へ

### V 瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師 (神言会)

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

詳細問い合わせは電話で。

VI リーゼンフーバー神父による研究会 (1999~2000年)

- ①キリスト教入門講座 日時：金曜日 18:45 ~20:30  
場所：聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
対象：キリスト教を学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方どなたでも。予備知識は必要ありません。

各会のテーマ： 8/27 イエスの復活—今に生きるイエス  
9/3 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス  
9/10 聖霊—神の愛を受ける  
9/17 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる  
9/24 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる  
10/1 教会の成立と意味—イエスを中心に集う  
10/8 人間としてのイエス—新しい人間の基礎付け\*黙想会10/9-11

- ②神学読書会 日 時：毎月第2・第4(第5)水曜日 18:30~20:30  
場 所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期的参加  
対 象：キリスト教の基本的知識を持っている20代~30代の方。

- ③聖書研究会\* 日 時：毎月第1・第3水曜日 18:30 ~20:00  
場 所：S. J. ハウス第5会議室  
内 容：日曜日の聖書箇所を読んで一緒に考える。どなたでも。  
\*日 時：木曜日 12:40 ~13:25  
場 所：上智大学7号館 316号研究室  
内 容：新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

- ④坐禅会 日 時：月曜日 17:20~20:10 木曜日 18:00~20:30  
場 所：クルトゥルハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があり。  
どなたでも。遅刻、不定期参加も可。

接 10月29日(金) " ~11月3日(木) "  
心 東2000/2月26日(土)8:30 ~27日(日)16:00 上石神井黙想の家 5600円

- ⑤ミ サ：水曜日 17:10~18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂

- ⑥黙 想：水曜日 18:00~18:30 場所： (同上)

(ミサ、黙想、共に (8月を除く))

- ⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30~16:00 場 所：S. J. ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。

9月11日、10月16日、11月20日、12月11日、2000年1月8日、2月19日、3月4日

- ⑧黙想会： 10月9日(日)10時~11日(月)15時、12月4日(土)10時~5日(日)15時、  
2000年3月11日(土)10時~12日(日)15時

- ⑨アガペ会：説明会と集い・右記の日13時30~ 10/3. 1/22. (20代~40代の信者)

- ⑩クリスマス会：12月18日(土)16:30~ 上智大学かつらぎ会館地下ホール 要申込み

ミサ : 12月23日(木)14:00~ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

以上、問い合わせ・連絡先 : クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX、03-3238-5056

Ⅶ 三位一体の聖体宣教女会 「祈りの家」

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

“聖書で祈る”

指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）

対象：女性信徒

日時：10月23日（土）5:30P.M.～10月24日（日）4:00P.M.

2月26日（土）5:30P.M.～2月27日（日）4:00P.M.

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会）

対象：女子青年

日時：11月28日（日）10:00A.M.～5:00P.M.

2月11日（金）10:00A.M.～5:00P.M.

聖書研究会 - 雅歌を読む -

講師：シスターマグダレナ（三位一体会）

対象：一般 信徒 お弁当持参

日時：11月8日（月）10:00 A.M.～3:00P.M.

以上 申し込みは、各期日 5日前まで

聖書に親しむ集い

講 師：シスターマグダレナ

テーマ：2000年に向けて 御父、御子、聖霊

対 象：一般信徒

日 時：5月～11月までの最終木曜日 2:00P.M.～3:00P.M.（7.8月はお休み）

キリスト教講座 毎週木曜日 10:00A.M.～11:30A.M.

十字架の使徒職 （司祭のために祈る集い）

対 象：信徒、求道者

指 導：本会 会員

期 日：第一グループ 毎月第2金曜日（2:00P.M.～3:30P.M.）

期 日：第二グループ 毎月第1木曜日（2:00P.M.～3:00P.M.）

Ⅷ マリアの御心会（明泉会）

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2 TLE.03-3351-0297

I. 黙想会 担当：シスター今村和子

① 聖書深読黙想会 - 主日の福音を中心に -

隔月・日曜日 10:00a.m～5:00p.m.

② 黙想と祈りの集い ……テゼの歌をうたいながら

③ 霊操による祈りの集い

指導：長町 裕司師（イエズス会）

毎月第3土曜日 6:00～8:00p.m.

II ① 聖書会 …詩編を読む…

毎月第1月曜日 10:00～12:00a.m.

② 聖書通読講座

木曜日 6:30～8:30pm.

## IX 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

### A 祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

1 2月10（金）夕食～11日（土）午後5時まで。星野正道師（カルメル会）

#### ● 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

日時： 毎月 第2土曜日 午後4時～午後5時

場所： 不二聖心のキャンパスにあるどこかの聖堂（四箇所の一つ）

（当日黙想の家の玄関に表示します。）

内容： 沈黙の祈り

（.9/11, 10/9, 11/13, 12/11）

### B 黙想会

#### ☆ 8日間または6日間の黙想会

初日の夕食（6時）～最終日の朝食まで。2～3日だけの参加も可能。

③ 7月1日（木）～10日（土）終了 ヘルパー司祭、シスター数名

④ 8月29日（日）～9月7（火） ”

#### ☆ 婦人の黙想会

② 10月4日（月）午後2時～5日（火）午後3時まで、

☆ 家族連れの黙想会 ベビーシッターも同時募集！

② 10月2日（土）午後6時～3日（日）午後3時まで

#### C 一日黙想会 講師：カルメル会司祭星野正道

場所：聖心会若宮共同体

日時：9/7, 11/9（以上全て火曜日）

上記Bの☆マークの黙想会およびC一日黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：

165-0033東京都中野区若宮3-9-4 若宮共同体 TEL. 03-3337-3291

聖心会シスター交野（かたの）

## X カトリック内観研究会

代 表：藤原直達（大阪教区司祭）

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-10-5 カトリック浅草教会内

TEL&FAX 03-3862-8876

\* 予約相談は、まずはファックス・手紙でご連絡ください。\* 予約が決まれば、さらに詳しく場所、申し込み、諸注意、など送ります。

### 予 定 表

L 7/3～10	八日間	茅ヶ崎（了）	U 11/30～12/4	五日間	茅ヶ崎
M 7/18～24	七日間	奈良市（〃）	V 12/13～19	七日間	横浜・戸塚
N 7/31～8/7	八日間	茅ヶ崎（了）	W 1/25～30	六日間	茅ヶ崎
O 8/18～25	八日間	千葉・白子	-	以下は2000年	-
P 9/11～18	八日間	茅ヶ崎	A 1/14～20	七日間	茅ヶ崎
Q 9/25～10/2	八日間	茅ヶ崎白子	B 2/1～6	六日間	横浜・戸塚
R 10/9～16	八日間	茅ヶ崎	C 2/19～16	七日間	茅ヶ崎
S 10/24～30	六日間	茅ヶ崎	D 2/27～3/4	七日間	茅ヶ崎
T 11/22～28	七日間	横浜・戸塚			

公開講座 イエスと日本人 -東西の内観-

日時：1999年 9/6日 \*10:00 ~ 12:00

受講料：7,500円。一般 8,400円（入会金不）（受講料に消費税5%が加算）

場所：新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター（受付は4階）

朝日新聞の文化活動 朝日カルチャーセンター

〒163-0204新宿区西新宿 2-6-1 TEL:03-3344-1941 私書箱22号

TEL:03-3344-1945

☞ 今夏はヨーロッパの大聖女・アピラの聖テレジアの「靈魂の城」と内観法との比較の試みである。

X I. コングレガシオン・ド・ノートルダム

黙想会

TEL.(昼間0424-82-8056) 係 山本三千子

日時：9/24日（金）8:00P.M. ~

9/25日（土）（9:00A.M.からの参加も可） 講話：加藤圭師（サレジオ会）

9/26日（日）4:00P.M. 解散

参加費：4,000円

申込み：9/22（水）まで

場所：〒182-0034 東京都調布市下石原3-55 TEL(0424-82-2012)

コングレガシオン・ド・ノートルダム FAX(0424-82-2163)

シスター秋山

X II. 日本カトリック研修センター

〒466-0834 名古屋市昭和区広路町単人30

TEL 052-831-5037

FAX 052-831-5317

宗教から福音へ

聖書は神の言葉。でも読むのはなかなか…<sup>者</sup>多くのキリストの実感…

「いまいちピンとこない」ことが多いですね。「聖書は神様からの手紙というのは本当です。でもそのつもりで読んでいくと、なんかちぐはぐな感じ。「神は御座を高くおく。しかし、低みにたって天と地を御覧になる。弱った者を塵の中から起こし、乏しい者を芥の中から高くあげられる。」（詩113）神様の仕事場は塵芥がたまっている「低み」だとわかるとき、そこからいっしょにもう一度聖書を読んでみませんか、？

日時 9月16日~19 木~日 費用：37,500

指導 Fr 本田 哲郎, OFM（ふるさとの家）

## 【新刊紹介】

\* 上智大学中世思想研究所編訳・監修

### 『中世思想原典集成4 初期ラテン教父』

(加藤信朗監修、平凡社、6月21日発行、1248頁、定価〔本体〕10,000円)

『初期ラテン教父』は2世紀末から6世紀前半に至る西方ラテン教父の主な思想家18名、計29著作を訳出したものです。これらの著作は西方カトリック教会、またプロテスタント教会の神学の基盤となったものですが、これまで部分的にしか知られておらず、本巻の邦訳は、現代の日本の教会にとっても少なからぬ意義をもつものです。本巻ではヒラリウス、アウグスティヌスの『三位一体論』のような教義的著作から、テルトゥリアヌス、キュプリアヌスらの司牧的教書、またヒエロニムス、ベラギウス、アウグスティヌス、カッシアヌス、カエサリウスらの修道思想、マリウス・ウィクトリヌス、ヒラリウス、プルデンティウス、ノラのパウリヌスなどの古代キリスト教ラテン詩・讃歌まで、ラテン教父の思想をさまざまな面から取り上げており、専門家のためだけでなく、教会の典礼、修道生活、信仰生活をあらためて原点から問ううえでも参考になります。参考までに、本巻収録著作は以下のようになっています。

1 総序		K・リーゼンフーバー
2 テルトゥリアヌス	洗礼について	佐藤吉昭訳
3 テルトゥリアヌス	魂の証言について	佐藤吉昭訳
4 テルトゥリアヌス	殉教者たちへ	佐藤吉昭訳
5 ノヴァティアヌス	貞操の賜物について	塩谷惇子訳
6 キュプリアヌス	主の祈りにについて	吉田聖訳
7 キュプリアヌス	カトリック教会の一致について	吉田聖訳
8 キュプリアヌス	背教者について	吉田聖訳
9 キュプリアヌス	善行と施しについて	吉田聖訳
10 キュプリアヌス	死を免れないことについて	吉田聖訳
11 ラクタンティウス	神の怒りにについて	高橋英海訳

- 12 マリウス・ウィクトリヌス アリウス主義者カンディドゥスの  
ウィクトリヌスへの手紙／アリウス主義者カンディドゥスへ  
の手紙 高橋雅人訳
- 13 マリウス・ウィクトリヌス 讃歌 田坂さつき訳
- 14 ポワティエのヒラリウス 三位一体論／讃歌 出村和彦訳
- 15 アンブロシウス エクサメロン（天地創造の六日間） 荻野弘之訳
- 16 ヒエロニムス 最初の隠修士パウルの生 荒井洋一訳
- 17 ヒエロニムス 書簡集 荒井洋一訳
- 18 プルデンティウス アポテオシス（キリスト頌歌） 加藤武訳
- 19 ノラのパウリヌス 歌謡31 加藤武訳
- 20 スルピキウス・セウェルス 聖マルティヌス伝 橋本龍幸訳
- 21 ペラギウス デメトリアスへの手紙 鎌田伊知郎訳
- 22 アウグスティヌス 三位一体論第15巻 加藤信朗＋上村直樹訳
- 23 アウグスティヌス 修道規則 篠塚茂訳
- 24 ヨハネス・カッシアヌス 霊的談話集第1巻 市瀬英昭訳
- 25 アクイタニアのプロスペル ルフィヌスへの手紙――恩恵と自由  
意志について 樋笠勝士訳
- 26 レオ一世 書簡28－コンスタンティノポリスのフラウィ  
アヌスへの手紙（レオのトムス） 加藤和哉訳
- 27 アルルのカエサリウス 修道士のための戒律／修道女のための戒律  
又野聡子訳



上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線：「<sup>かみのげ</sup>上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線：「<sup>くじ蔵</sup>六地藏駅」下車徒歩15分

京阪バス：六地藏の町並バス停より御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共：0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って<sup>樹勢雄し</sup>明礮橋を右折

男子跣足カルメル修道会

## お 原 頁 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨  
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画  
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて  
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいます。

---

・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5

☎045-941-3566

---

### あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道